

診療科目 ● 消化器内科学

プログラム責任者：前田 慎

附属病院	
主任教授	前田 慎
准教授	稲森 正彦（臨床研修センター長）、芝田 渉（先端医科学研究センター）
講師	近藤 正晃
助教	桐越 博之（検査部）、田村 寿英、佐々木 智彦、三輪 治生
附属市民総合医療センター	
教授	田中 克明（臨床研究推進センター長）
准教授	沼田 和司（消化器病センター担当部長）、中馬 誠、斎藤 真理（化学療法・緩和ケア部長）、粉川 敦史（内視鏡センター長）、野崎 昭人（輸血部長）
講師	平澤 欣吾
診療講師	杉森 一哉
助教	福田 浩之、原 浩二、石井 寛裕、佐藤 知子

本プログラムの特徴

1. スペシャリスト育成プログラム（卒後3年目から5年目）（消化器内科専門施設での研修コース：内科認定医・総合内科専門医及び消化器内視鏡専門医、消化器病専門医、肝臓専門医取得を目指す）：入院患者の担当医となり、指導医のもとで検査・治療計画を立て診療方法を習得する。消化管X線検査、上部・下部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査に習熟し、内視鏡治療等について学ぶ。剖検は行うように努力する。当直、オンコール、外来診療、学会等への報告、症例報告の作成を行う。附属病院では臨床腫瘍科での研修も可能。本プログラム後半及び終了後、消化管、肝臓、胆膵グループに分かれ当該分野の最新手技を学ぶ事を念頭に置く。

2. ジェネラリスト育成プログラム（卒後3年目から5年目）（内科標榜施設での研修コース：内科認定医及び総合内科専門医の取得を目指す）：入院患者の担当医となり、指導医の下で検査・治療計画を立て診療方法を習得する。消化器疾患に加え、呼吸器、循環器等の一般的な疾患に対する診療を身に付ける。剖検は行うように努力する。当直、オンコール、外来診療、学会等への報告、症例報告作成を行う。総合診療専門医プログラムへの移行も可能である。

どちらのコースに関しても専門医取得に必要な臨床症例、学会発表、論文作成、申請書類作成に関して各々の学会の専門医、指導医が責任をもって指導致します。新専門医制度への移行も可能なプログラムです。



目 標

消化器病学会のカリキュラムに基づき、消化管、肝胆膵にわたる全般的な検査とその解釈をマスターし、いずれのコースも将来的な消化器病専門医取得を目指す。

- 1) 指導医のもと、消化器疾患に対する一般診療を習得し、上部・下部消化管内視鏡検査の施行・読影、CT、MRI、MRCPの読影、腹部超音波検査の施行・読影などを習得する。（卒後3年次）
- 2) 指導医のもと、消化器疾患に対する一般診療を習得し、上部・下部消化管内視鏡検査の施行・読影、CT、MRI、MRCPの読影、腹部超音波検査の施行・読影などを独立して行う。ERCPなどの処置内視鏡の施行・読影を習得する。（卒後4年次）
- 3) 卒後3-4年次の課題に関し、更に正確性、習熟度を高めるとともに、3年次、4年次生の指導を行う。スペシャリスト育成プログラムでは指導医のもと、当該分野の最新手技についての学習を開始する。（卒後5年次）

目標とする学会認定専門資格

内科学会認定内科医	総合内科専門医
消化器病学会専門医	消化器内視鏡学会専門医
肝臓学会専門医	

主な協力病院

横浜南共済病院、済生会横浜市南部病院、藤沢市民病院、神奈川県立がんセンター、横浜保土ヶ谷中央病院、神奈川県立足柄上病院、横須賀市立市民病院、横浜済済会病院、秦野赤十字病院、藤沢湘南台病院、大森赤十字病院

診療科のホームページ URL	担当者・連絡先
http://square.umin.ac.jp/ycugi/index.html	杉森 一哉 gastro@yokohama-cu.ac.jp

診療科実績

上部消化管内視鏡検査 5,840件、下部消化管内視鏡検査 3,213件、内視鏡的粘膜下層剥離術 394件（うち、食道 84件、胃 210件、大腸 100件）、内視鏡的止血術・異物除去術 110件、カプセル内視鏡 25件、小腸内視鏡 43件、胃瘻造設・交換 115件、胃十二指腸ステント留置術 31件、ERCP 412件、超音波内視鏡検査 481件（うち、造影超音波内視鏡検査 193件、超音波内視鏡下穿刺吸引組織診 105件、超音波内視鏡ガイド下膵嚢胞ドレナージ術 3件、超音波内視鏡ガイド下胆道・膵管ドレナージ術 5件）、内視鏡的乳頭切除術 7件、内視鏡的ネクロセクトミー 2件、肝動脈塞栓術・動注 191件、ラジオ波熱凝固術 70件、造影超音波検査 900件

指導医からの一言

消化器内科では対象とする器官が多く疾患も多岐にわたるため、3年間の専門医育成プログラム期間中に学ばなければならぬことが非常に多いと思います。当教室には大学2病院に加えて、若手医師の学習のチャンスに恵まれた症例数の多い地域の中核病院が協力病院として数多くあります。これらの病院にて研修することによる幅広い臨床能力の養成を行います。

大学病院では、消化管、肝臓、胆膵の3グループに分かれて検査・治療にあたり、必要に応じてグループ間で緊密な連携を取りながら診療していますが、各グループをローテートすることにより、将来の自分の専門を見据えることにも役立ちます。上部内視鏡検査、下部内視鏡検査、腹部エコー、肝生検、ERCPなどの基本的手技はもちろんのこと、消化管領域では1)早期食道・胃・大腸癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術、2)ヘリコバクターピロリ菌感染対策、3)食道静脈瘤に対する内視鏡的治療、4)炎症性腸疾患に対する内科的治療、肝臓領域では1)肝癌の経皮的局所療法（ラジオ波焼灼療法等）および血管造影による集学的治療、2)ウイルス性肝炎に対する抗ウイルス療法、胆膵領域では1)胆膵悪性腫瘍の閉塞性黄疸のステント留置術、2)胆管結石の内視鏡的除去、3)体外衝撃波による膵石破碎治療などのトレーニングが可能です。ジェネラリスト育成プログラムでは消化器を中心とした一般内科のトレーニングを習得することもできます。2017年度より開始される予定の新専門医制度にも対応可能なプログラムとなっています。

また、大学のプログラムであることから、リサーチマインドの育成にも力を注いでいます。臨床経験を積み重ね、症例報告、臨床研究を視野に入れながら、研修を行っていただき、国内外の学会での発表、論文投稿を目指します。さらに大学院博士課程との乗り入れコースも設けており、専門医育成プログラム期間を大学院在籍期間とすることで、消化器内科医の専門医を目指しながら、博士号の取得をすることも可能となっています。大学院におけるテーマは臨床、基礎的研究に関わらず、最先端の臨床現場に身を置くことによって、持った疑問点を解決することに直結するような研究を行います。そして、その研究がどのように臨床に還元できるのかを追求していただきます。

2-3年毎のローテーションでプログラム変更も可能です。また、これらのプログラムの延長にはおのずと専門医および学位の取得が果たせるはずで、その後は本人の希望を最優先に消化器の専門医として、また消化器を中心とした内科のジェネラリストとして臨床の現場で活躍していく人、留学をする人、大学病院でさらに専門を究める人など、さまざまな方向性に対応していくことができるプログラムです。

シニアレジデントからのメッセージ

私は平成23年度卒で、市中病院で初期研修医を終え、消化器内科学教室のシニアレジデントとして市民総合医療センターで1年間働かせて頂きました。市民総合医療センターは臨床を主体とする大学附属病院であり、症例が非常に豊富で、また、各分野のスペシャリストが揃っています。診断や治療で悩んだ時に、指導医の先生方に親切丁寧なご指導を頂き、最先端の医療を学ぶことができました。昨年1年間で学んだことが、現在出向中の市中病院でも大いに役立っています。消化器内科は疾患が多く、治療法も多岐にわたるため、身に付けなければいけない知識や技術がまだまだたくさんあり大変なこともありますが、やりがいを感じることができる科だと思います。消化器内科学教室には様々な大学出身の先生方が所属しているため、他大学出身の私でも直ぐに馴染むことができ、非常に居心地の良い教室だと思いました。是非一度、教室に遊びに来て楽しい雰囲気を感じて下さい。一緒に働ける日を楽しみにしています。協力病院（横浜南共済病院）勤務 Y.T.（平成23年卒）

私は市中病院での初期研修を終了後、横浜市立大学消化器内科学教室の後期研修医として横浜市立大学附属市民総合医療センターで研修を開始したばかりの駆け出しです。現在は上部消化管内視鏡検査の習得に夢中で、上級医のご指導の下、多くの症例を経験させて頂いております。病棟ではローテートで胆膵グループに所属し、毎日行われる専門医とのカンファレンスで揉まれながら、胆膵内視鏡の助手や胆膵癌化学療法などの経験させて頂いており、充実した毎日を送っております。非常に明るくて、溶け込みやすい雰囲気の教室ですので、是非、一度見学にお越しください。横浜市立大学附属市民総合医療センター勤務 M.S.（平成25年卒）